

序

海陸一貫輸送ノ研究ハ本來大陸國ノ地境ノ特殊性ニ基ツク國別の研究ニ屬シ所謂滿洲ノ特殊性トイフモノハ結局換言スレバ滿洲國經濟政策乃至交通政策ヲ以テ表現サレルモノデアアルカ、滿洲經濟ガ日本經濟ノ一環タル以上滿洲交通機關モ日本經濟ノ一環ニ一部分タルニ違ギナイノデアツテ本研究ハ廻々迄全日本のナ經濟ニ協力スル陳綜合的ナ視野ニ於テ檢討セラレネバナラヌノデアアル。特ニ物動計畫及配船計畫ガ日本政府ノ率中ニアル以上先ヅ中央トノ連繫ヲ圖ル以外ニ現地側ノ方針ハ生キテ來ナイ譯デアアル。而シテ現地側ノ要請ト中央ノ統制トイフ相反性ヲ有スル兩者ノ調整ヲ如何ナル點ニ於テ把握スベキカヲ、交通機關ノ問題トシテ檢討スルノガ海陸一貫輸送研究ノ眼目デナクテハナラヌ。

次ニ大陸側海陸一貫輸送ニ關スル研究ハ其ノ方法トシテ次ノ如ク把握セラルベキデアアル。

(一) 經濟的方面

滿洲側ヲ中心トシタ物資交流計畫ノ樹立セラルベキヲ指ス。即チ先ヅ物資ヲ押ヘル事ニヨツテ凡ユル交通政策ハ規正サルベキデアアル。即チ滿洲重要物資ニ關スル出何統制及輸入計畫ガ與ヘラレナケレ

(二)

ハ鐵道港灣計畫モ亦日滿間所要船腹量モ決定サレヌノデアル。

政策的部面

以上ノ如キ經濟的要素ヲ充足シ現地交通機關トシテノ機能ヲ發揮シ
滿洲關東輸送物資ノ輸送ニ選擇ナカラシムル如キ交通政策ノ確立セ
ラルベキヲ指ス。

即チ日滿間南北兩幹線ノ使用率ヲ均衡化スル豫ナ鐵道港灣計畫ヲ遂
行シ滿洲關東所要船腹量ヲ確保セントスルノガ其ノ内容デアル。

猶負擔力少キ原料品、其料品等滿洲關東物資輸送ノ圓滑ヲ圖ル爲低
運費ヲ提供セントスル價値的部面モ政策的部面ノ範疇ニ屬スルモノ
デアル。

註 而シテ斯カル平時ニ於テハ滿洲經濟ノ育成發展ヲ企圖スル交

通政策ノ確立ハ戰時ニ於ケル動員計畫及軍需品輸送ヲ完遂スベ
キ不可缺ノ要素デアリ和戰兩陣ノ態勢トシテ其ノ重要性ヲ認識
セラレネバナラヌモノデアル。

(三)

流通的部面

大陸關ノ交通体系ハ日本内地ト非常ニ其ノ趣ヲ異ニシテ居リ海陸兩
交通機關ノ連繫ハ最も重要デアリ之ガ一貫的ニ運営サルベキハ輸送
技術ノ問題トシテ充分検討セラレネバナラヌ點ヲ指ス。

重要港ハ蘇伊士ナリ
 従ツテ一貫線ナルモノガ現地
 ル爲ニハ流通的部面以外ニ且ノ根據ヲ
 ト密接ナル關係ヲ有スル現地交通機關ト
 モノデナクテハナラヌ。即チ經濟的部面ニ立脚
 點側ノ特殊性トシテ本研究ノ重要性ガ認識サレルノ
 點者或ハ曰ク、斯ナル事例ヲ以テ滿洲側ノ特殊性ナリト
 言フ。然レ、南洋諸域ヲ通ジテ同様ナル特殊性ガ云ハサレルデハナイカ
 又以上ノ如キ地域ニアハ全部日本側船舶業者ガソノ海上輸送ヲ擔當シ
 テ居リ且日海關ニ於テモ郵、商、川崎其ノ能日本側船舶會社ガ存在シ

之ノ協力ヲ快クシテ滿洲經濟政策ノ發展ハナイデハナイト
 乍併以上ノ如キハ東亞共榮圈ニ於テ日滿關係乃至日滿支
 連の一經濟的ニ又人口政策的ニ其ノ基本的結合體トシテ重要視サレテ
 居ル點ニ目ノ次ニ特ニ滿洲經濟ノ持ツ意義ヲ認識セザルモノデアリ
 又關東州海運ノ存在ヲ認識セザルモノト云ツテ然ル可キデアル。中南
 支及南方諸域方輒他民地の建設ヲ想定シ之等地域ノ海上輸送ハ日本側
 船舶會社ヲ擴張スベキハ當然ノ問題デアリ之等ノ船舶會社ハソノ地域ヲ
 代表スル船舶部門デハナイノデアル。從ツテ之ト日滿間ニ於ケル關東
 州海運ト日本船舶會社ノ並立ヲ混同シハナラナイ。日滿間乃至日
 支間ニ於テノミ始メテ他國の特權陸ヲ有ツ船舶部門ヲ必要トスルノデ
 アル。

本研究ニ於テハ問題ヲ日滿間ニ限定シタノデアツテ政策面トシテモ
 一部分ヲ取扱ツタ譯デアルガ研究不足ト資料不足ノ爲解釋の部面、政
 策の部面、流通の部面、形態の部面トモ何レモ粗雑デアリ識ニ斷片的
 デアルガ一先ツ取扱メルトトシタ。

海運一貫線爲モ技術的研究ヨリ政策的研究ヘ轉換スル點ニヨツテ日滿
 間ノ間接ハ更ニ滿支間、滿洲南洋間又戦後ノ問題トシテ滿洲第三國間
 ノ問題ニ迄發展セネバナラナイガ、ソウナレバ海運一貫經營乃至滿洲

8000

策トイフ用語ニ就テハ適當ナク之ハ朝鮮側ノ經濟政策乃至海運政

1449